期間別＼賃率	賃数			賃率		
	東京	大阪	計	東京	大阪	計
一年以内	八九八	六三六	一、五三四	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
二年以内	四三二	二四六	六七八	五四・三	五七・七	五五・七
三年以内	一三七	九八	二三五	二六・二	二二・三	二四・六
五年以内	一一七	八九	二〇六	八・三	八・九	八・五
一〇年以内	五〇	二九	七九	七・一	八・一	七・五
一〇年以上	一八	四	二二	三・〇	二・六	二・九
計	一、六五二	一、一〇二	二、七五四	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一八	一三	三一			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			
内七ヶ月	四九	四五	九四	五・五	七・一	六・一
八ヶ月	五一	二二	七三	五・七	三・五	四・八
九ヶ月	四二	二六	六八	四・七	四・一	四・四
一〇ヶ月	五〇	三四	八四	五・六	五・四	五・五
一一ヶ月	七一	四二	一一三	七・九	六・六	七・四
一二ヶ月	四五	二〇	六五	五・〇	三・一	四・二
計	八九八	六三六	一、五三四	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

精神的には悪いと知りつゝも只物質的に恵まれたい慾望のために此の生活を選んだ若い娘等の女給生活の勤續期間は第二十表に示す如く、東京も大阪も殆ど變りがない。勤續期間の第一位は一年以内（一年以内の中では二ヶ月と三ヶ月とが多數を占め、順次月の多いに及んでゐるが一ヶ月のものは大阪は第六位、東京は第五位を占めてゐる）で次に二年以内、而して順次年數の多いに及んでゐる。又十年以上の者が千人中、東京では十一人、大阪では四人の割合である。此の統計に依つて見るも女給の勤續は一、二年間のものが入割を占めてゐる處を見ると女給としての生命は短いものだ。先づ一、二年と見ればよい。然し其れより長いものは必ず何か家庭の事情のある者かさなくば店の種類にも依るものではないだらうか。大體夫に別れたとか、家計維持の爲仕方なくとか其他種々なる事情のあるものばかりだと考へられる。

之を年齢別の統計と比較すると十八歳から二十一歳迄のものが五割四分を占めてゐる。二十歳前後が結婚年齢で内閣統計局の人口動態統計の婚姻年齢を見ても二十歳から二十四歳のものが四割八分の率を示してゐる。即ち此の職業も婚姻を以て終りとする（一部既婚者あるも）ものと考へられる。客種は若い青年が多い。それに愛嬌を振り撒き機嫌をとるには若い中だけで既婚婦人と判るとお客が減るそうだ。故に女給生活の壽命は短く長くて二年位と結論したい。

更に女給生活の期間を東京、大阪に分ちて警察管内別に見れば

第二十一表　女給生活の期間調査（東京）

期間別 ／ 警察署	日比谷	錦町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	麻布	四谷	神楽坂	早稲田	富坂	本富士	上野	象潟	原宿	洲崎	大塚	日本堤	計	百分比
一ケ月	一	一五	一	三	八	二	五	四	七	三	一	四	八	九	四	三	一	三	六	八七	五・三
二ケ月	九	五	九	二	四	五	五	四	九	七	四	二	一〇	八	七	七	一	三	六	一一三	七・〇
三ケ月	二	九	七	二	七	五	四	一	九	五	四	一	八	一八	一〇	六	一	三	五	一一六	六・八
四ケ月	四	七	七	三	四	二	三	一	一七	三	六	三	六	一二	一五	六	一	五	五	一一〇	六・一
五ケ月	三	三	一〇	一	九	一	四	一	九	七	一	六	一	七	五	四	一	三	五	九〇	五・四
六ケ月	三	二	三	三	五	三	一	一	一〇	三	二	四	五	四	七	五	二	一	五	七四	四・五
七ケ月	二	二	二	二	二	二	二	二	八	三	三	三	四	二	六	三	一	一	五	四八	二・九
八ケ月	二	三	二	二	四	三	二	二	五	五	四	一	五	四	三	二	二	一	五	五一	二・一
九ケ月	三	一	七	一	一	一	三	一	三	五	一	一	二	二	一	一	一	一	五	四一	二・五
一〇ケ月	一	二	七	三	二	二	一	三	一	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	二一	一・〇
一一ケ月	三	五	七	二	七	三	三	二	七	一	三	三	四	八	七	四	一	一	六	四一	三・〇
一二ケ月	一	一五	二	三	八	二	五	四	一一	五	一	二	五	一	一	一	一	一	一	八九七	五三・七
一年以内	三四	二	一九	一三	二八	二四	一二	一三	三六	一七	一七	一九	一三	二七	六三	二四	一二	二	一四	四三	二五・二
三年以内	一九	八	六	二	八	七	三	三	一三	五	一	九	四	七	二七	四	七	一	四	一三七	八・三
五年以内	八	九	七	一	六	五	四	三	九	五	五	九	四	二	一三	三	五	一	八	一二七	七・一
一〇年以内	三	三	一	二	一	二	三	一	三	一	一	一	一	一	一四	一	一	一	二	五〇	三・〇
一〇年以上	一	一	二	一	一	一	三	一	二	二	一	一	一	二	二	二	一	一	六	一八	一・〇

第二十一表の二　女給生活の期間調査（大阪）

期間別 ／ 警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天満	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計	百分比
一ケ月	二	三	六	二	一	二	一	七			一	一	六	四	一	一	三	五〇	四・五
二ケ月	一五	一九	八	一	二	一	三	二二	三	四	一	二	一	二	一	九	六	一〇八	九・八
三ケ月	二	二三	一	四	三	二	一	二三	六	三	三	一	三	二	三	三	五	九三	八・四
四ケ月	六	一三	一	二	一	一	二	一三	一	三	四	二	一	四	一	三	三	六四	五・八
五ケ月	五	一二	三	四	四	五	五	二二	四	二	三	一	二	四	一	四	四	七七	六・九
六ケ月	四	七	一	六	四	三	一	九	一	一	四	一	一	一	四	三	一	五五	四・九
七ケ月	八	四	一	一	一	一	三	八	二	一	三	一	一	三	四	一	二	四五	四・〇
八ケ月	五	三	二	二	二	一	二	五	五	一	二	一	二	一	一	一	一	二三	一・九
九ケ月	一	一	一	四	一	一	一	一	二	二	一	一	一	一	一	一	一	二六	二・三
一〇ケ月	二	一	一	二	一	一	一	二	二	一	一	一	一	二	一	一	一	三四	三・〇
一一ケ月	一	一	一	七	一	一	一	一〇	二	一	一	一	一	一	一	一	一	四二	三・八
一二ケ月	一	四	一	一	一	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二〇	一・八
一年以内	二	二	一	二	二	二	二	七	三	三	二	二	二	二	二	二	二	五〇	二・五
三年以内	一九	一三	六	一	八	一	一	一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一七	一・九
五年以内	八	九	七	二	五	四	一	九	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一二	一・〇
一〇年以内	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一・〇
一〇年以上	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一・〇

期間別／警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計	百分比
二年以内	一三	三一	五	一六	九	八	一〇	五三	一三	一一	二三	八	三	六	三	八	九	六九	五七・一
三年以内	四	一五	一	九	五	五	二	二六	三	二	四	三	七	五	四	七	二	九八	八・八
五年以内	八	一六	一	一〇	七	二	一	一六	四	三	三	七	二	五		三	一	八九	七・九
一〇年以内	一	五	一	四	一	一	一	八	四	一	一	一	一		一	三	一	二九	三・〇
一〇年以上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	四	一
計	六九	一〇〇	二四	三八	一七	二	一四	一四三	二四	一八	二七	九	一八	二七	一八	二八	三	六三六	五七・一
不明	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一三	一・〇
計	九五	一六八	三〇	七七	三八	三八	二八	二四五	四八	二七	六七	二八	三四	四三	三四	四九	四三	一、一〇三	九九・一
計	九五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	二九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、一二五	一〇〇・〇

東京では錦町、西神田、本富士、上野、原庭の各管内は比較的勤續期間短かく調査數の八割四分乃至九割は二年以内のものである。之に反して比較的勤續期間の長いのは日比谷、象潟、洲崎管内であつて滿二ヶ年以上の女給生活を續けてゐるもの三割乃至三割五分を占めてゐる。此の東京市の兩極端のカフエーにて同じ現象を見るのは恐らく異つた二つの理由のあることを思はせる。

大阪では短期間の女給生活者の多いのは芦原、玉造、天滿、泉尾の各管内で八割五分乃至九割六分は二年以下のもの。勤續期間の長い所は島之内、曾根崎で二ヶ年以上の者三割乃至四割を示してゐる。

九　現在の店に就職してよりの期間

次に現在の店に就職してからの期間に就て調べて見ると女給生活に入つて以來の期間と大差ない。一年以内は大阪七割七分六厘、東京七割四分、二年以内は、大阪一割五分八厘、東京一割二分八厘、以下年數に順じ其率は減少してゐる。

第二十二表　現在の店に就職してからの期間調査（第二圖其一、二參照）

期間別／實數率	實數			率		
	東京	大阪	計	東京	大阪	計
一年 一ヶ月	一九九	九三	二九二	一六・六	一一・二	一四・四
二ヶ月	二二六	一七五	四〇一	一八・九	二一・〇	一九・八
三ヶ月	一六九	一三九	三〇八	一四・二	一六・七	一五・二
四ヶ月	一四一	九六	二三七	一一・八	一一・五	一一・七
五ヶ月	一〇九	九〇	一九九	九・一	一〇・八	九・八
以内 六ヶ月	七八	五九	一三七	六・五	七・一	六・八
七ヶ月	四六	四七	九三	三・九	五・六	四・六
八ヶ月	四九	二七	七六	四・一	三・二	三・七
九ヶ月	三三	三三	六六	二・七	三・九	三・三

期間別＼實數率	實數				率			
	東京	大阪	計		東京	大阪	計	
一〇ケ月	五五	一九	七四		四・六	二・二	三・七	
一一ケ月	五四	三六	九〇		四・五	四・三	四・四	
一二ケ月	三四	二〇	五四		二・八	二・四	二・七	
計	一、一九三	八三四	二、〇二七		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	
一年以内	一、一九三	八三四	二、〇二七		七四・〇	七七・六	七五・八	
二年以内	二五六	一三八	三九四		一五・八	一二・八	一四・七	
三年以内	五六	五二	一〇八		三・四	四・八	四・〇	
五年以内	五四	四二	九六		三・三	三・九	三・六	
一〇年以内	二六	九	三五		一・六	〇・八	一・三	
一〇年以上	一三		一三		〇・八		〇・五	
計	一、五九八	一、〇七五	二、六七三		一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	
不明	七二	四〇	一一二					
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五					

一年以内の者のみを觀ると二ヶ月のもの大阪は二割一分、東京は一割八分九厘、三ヶ月の者大阪、一割六分七厘、東京、一割四分二厘、四ヶ月は大阪で一割一分五厘、東京で一割一分八厘となる。次

に一ヶ月の者、大阪一割一分二厘なるに東京は一割六分六厘なるは大阪に比し東京の異動率多きに原因するものと考へられる。

何と言つても女給生活者の如きは同一の店に長く居るものはなく兩市を合計して二ヶ月の者二、〇二七人中四〇一人、約二割を占め、第二位は三ヶ月の一割五分二厘、第三位は一ヶ月の一割四分四厘、六ヶ月以下の者合計すると一、五七四人となり不明者を除き調査總數の約六割に當る。

警察管内別調査は女給生活者の期間調査の場合と略々同じであるから次に東京、大阪の表だけを掲げておく。只極めて短期間の勤續者の數から見ると、前に掲げた女給生活者の期間調査の短期間の者の數より多いのは勤務先を變へた回數の調査と關聯して考へる時は略々了解出來ると思ふ。

第二十三表　現在の店に來てからの期間（東京）

期間別＼警察署	一ケ月	二ケ月	三ケ月	四ケ月	五ケ月	六ケ月
日比谷	三	一五	一四	二	五	三
銀町	一五	一六	一三	一〇	六	七
西神田	五	一三	一五	九	一三	四
新橋	八	五	六	五	二	一
築地	二	一六	一三	一〇	四	八
北紺屋	六	一三	七	九	三	一
三田	二	一三	四	五	二	一
表町	八	八	三		三	一
四谷	一三	一五	一七	二	八	七
神樂坂	四	二	九	四	四	二
早稲田	五	五	六	七	二	四
富坂	二	一三	一四	五	六	四
本富士	一三	二	五	四	二	一
上野	一三	二	二	一四	二	九
象潟	一七	四	一四	八	一〇	九
原庭	一〇	一三	一〇	四	四	五
洲崎	三	二	一	六	四	二
大塚	七	五	三	一	二	五
日本堤	一三	七	五	七	九	四
計	一九八	一三六	一六九	一四一	一〇九	七八
百分比	一二・三	一四・〇	一〇・四	八・七	六・七	四・八

第二十四表　現在の店に來てからの期間（大阪）

期間別／警察署	七ケ月	八ケ月	九ケ月	一〇ケ月	一一ケ月	一二ケ月	計	二年以内	三年以内	五年以内	一〇年以内	一〇年以上	計	不明	總計
日比谷	二	三	三		二	一	五三	三三	八	五	二		一〇〇	七	一〇七
錦町	三	五	二	三	二	二	九三	二	四	三	二		一三	五	一八
西神田	二	一	三	三	六	二	七六	一三	三	二	一		九五	三	九八
新橋	二		二	二	二	二	三六	六		二	一		四三		四三
築地	三	三	三	一	六	三	八一	三	二	一	二		九六	九	一〇五
北紺屋	一	三	二	三	一		四九	一〇	五	二	一		六七	二	六九
三田	二	一		二	一	二	四五	七	三		一		五六		五六
表町	一	二		二	三		二九	七	一	二	一		四〇	二	四二
四谷	五	四	二	五	四	六	二七	一九	五	五	二		一四六		一四六
神楽坂	二	三	一	三	二	一	四六	一六	三	四	二		七一	三	七四
早稲田	四		一		一	一	三七	一五		一		一	五四	一	五五
富坂			二	三			六〇	一〇	三				七五	二	七七
本富士	一	四	四	二	四		六〇	六	二	二			七〇	二	七二
上野	五	四	四	九	七	四	一二三	一九	三	五	二	二	一五三	三	一五六
象潟	五	五	四	九	一三	七	一二五	五三	一〇	五	六	三	二一二	一三	二二五
原庭	四	四		二	二	一	五九	二	二	二	一		七五	二	七七
洲崎					一	二	二	八		五	三	一	三八	一	三九
大塚	一		二				二六	七	一	一			三五		三五
日本堤	四	四	一	七	三		六四	七	一	二	一		七六		七六
計	四七	四九	三三	五五	六〇	三四	一、一九九	二六九	五六	五四	二五	一三	一、六一五	五五	一、六七〇
百分比	二・八	三・〇	三・四	二・〇	三・六	二・一	七四・〇	一六・九	三・四	三・三	一・六	〇・八	一〇〇・〇		

期間別／警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	綱島	計	百分比
一ケ月	二	七	一	四	二	二	一	二九	二	一	七	一	七	四	四	二	八	九三	八・六
二ケ月	二三	二八		三	四	四	六	四〇	一〇	二	九	三	五	六	五	一三	一二	一七五	一六・三
三ケ月	二三	二七			四	四	八	二九		七	九	四	一	六	五	六	四	一三九	一二・九
四ケ月	六	一六	一	七	二	五	二	二八	二	二	三	二	二	四	五	四	五	九六	八・九
五ケ月	四	一七	一	四	三	六	三	二六	四	一	三	二	二	五	一	二	二	九〇	八・三
六ケ月	三	八	一	八	二	三		一〇	二	四	七	二	二	四	一	六	一	七九	五・九
七ケ月	九	四	二	二	二	一	三	七	二	一	三	二	一	三	五	四	一	四七	四・三
八ケ月	三	一	二	一		一		八	一	二	五	一	二	一		二	三	二七	二・五
九ケ月	五	四	二	四	一	一	三	五	四	一	三	四	四	二		一	一	一九	一・七
一〇ケ月		六		二	二	一	三	三	三		五	二	二	一		二	一	三六	二・〇
一一ケ月		七		三	一	二		五	五		一	二	二	一		一		三六	三・二
一二ケ月		五		一				四										二〇	一・七
計	五三	三三	一六	四五	二二	二六	二七	一九四	三五	二六	五一	一九	二四	三七	二八	四二	三五	八三四	七七・五
一年以内	一〇	一九	九	一〇	九	九		二六	七	七	一三	三	七	二	二	三	一	一三八	二・八
二年以内	二	六	三	九	三	三	二	一三	二	二	一	一	一	二	三	二	二	五二	四・八
三年以内	七	七	二	七	四		三	二	一	二	一	四	二	二		一		四三	三・九
五年以内		二		三														一〇	〇・八
一〇年以内																		九	
一〇年以上																			

期間別＼警察署	芦原	船場	玉造	鳥之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	綱島	計	百分比
不明	一	三	一	六	一	一	三	二	一	一	三	二	一	一	一	一	七	四〇	
總計	四五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	三九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、二五	

一〇　勤務先變更の回數

洋食店や喫茶店に白いエプロンをかけて客の相手をする現代式の女の數は段々殖へて行く。時代の産んだ見逃すことの出來ぬ新職業だ。或る取締當局者は『エプロン女給と稱するが適當の名だと思ふ、彼等は漂泊性を多分に持つてゐて「女給さん入用」のビラを見ては彼方此方と浮草の樣に移つて行く、着物は着たきゝ所持品はバスケット一つ、其の中は化粧道具位のもので着替への一枚も持つてゐれば上の部だ』と談つてゐるそして就業中少しでも面白くないと、バスケットを抱えて退店し次から次へと移つて行く、簡單なものだと言ふ話を聞いた。然し本調査の結果に依ると前言は覆へされてゐるやうにも見える。

就職先を變へないものが東京は五一・七%、大阪は四四・三%、變へたものが東京は四八・三%、大阪は五五・七%となる。尙就職先を變へぬものが東京は三・四%多く大阪は反對に變へたものが二・四%多い。之を以て見ると東京は變へぬものが多く、大阪は就職先を變へたものが多い事になる。四回、五回と換へたものは統計上から見ると僅かな數で殆んど問題とするに足らないのである。猶詳細は次表によつて略々了解出來ると思ふ。

第二十五表の一　勤務先を變へた回數

回數＼賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	百分比 東京	百分比 大阪	百分比 計
不變	八三〇	四七二	一、三〇二	五一・七	四四・三	四八・八
一回	二七二	一八七	四五九	一六・九	一七・六	一七・二
二回	三三三	二五〇	五八三	二〇・七	二三・五	二一・八
三回	一三四	一一九	二五三	八・三	一一・二	九・五
四回	二二	二一	四三	一・四	二・〇	一・六
五回	七	八	一五			〇・六
六回	二	三	五			
七回	一	一	一			
八回	二	一	三			
九回	一	一	二			

回數＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	百分比 東京	百分比 大阪	百分比 計
一〇回	一	一	二	一	一	一
一〇回以上	一	一	二	一	一	一
計	一、六〇五	一、〇六五	二、六七〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	六五	五〇	一一五			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

第二十五表の二

區別＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	百分比 東京	百分比 大阪	百分比 計
變へたもの	七七五	五九三	一、三六八	四八・三	五五・七	五一・二
變へぬもの	八三〇	四七二	一、三〇二	五一・七	四四・三	四八・八
計	一、六〇五	一、〇六五	二、六七〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

右に依つて女給の勤務先を變へる狀況は左程甚だしいものではないことは略々推測出來るが、然し他の職業婦人に比べると落付かぬ商賣であることは確かだ。然らば轉々と三、四回も勤務先を變えるものは總て不眞面目と見ることが、果して正しいであらうか、調査票中の諸項目を綜合して見ると自ら三樣の傾向がある樣に思はれる。即ち(一)色々の誘惑を避けて自分の落付場所を探そうと急いで轉々するものと、(二)我儘氣儘を其儘に浮草の如くより以上の享樂を追ふてさ迷ひ歩き次第に奈落の底へ落込んで行くもの、(三)同じ店に長く居るのを店主の喜ばぬものあり且つ女給としても貴ひが減少すると云ふ傾向あるがためのものとの三種類である。然し何れにせよ勤務先を轉々と變へることは良い結果をもちきたさぬばかりか墮落の原因となることが多い、而し右の如く止むを得ないものも相當あることは見逃してはならぬ。尙勤務先を變つた回數の多いのは餘り香しいことでないから勢ひ不正直な記入が多くなつたことゝ思はれる、之は兩親關係の項に於て私生子、庶子の記入が一名もなかつたと同じ原因と考へられる。

一一 住込み、通勤

此の住居問題は女給の風紀の問題と關聯してチップ制度に次いで今後大いに考察を要する問題であらう。左に住込み、通勤の實數及び百分比の表を掲ぐれば

第二十六表　住居調査（第三圖表參照）

區別＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
住込	九三九	五四五	一、四八四	八〇・〇	七一・三	七六・六
通勤	二三五	二一九	四五四	二〇・〇	二八・七	二三・四
計	一、一七四	七六四	一、九三八	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	四九六	三五一	八四七			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

東京は調査數一、六七〇人の中、不明者四九六名を除き一、一七四人中、九三九人即ち八割は住込みにして、二三五名即ち二割は通勤である。大阪は不明者を除き七六四人中、五四五人即ち七割一分の住込、二割九分は通勤である。兩市を通じて七割七分は住込、二割三分は通勤であるから大多數は住込であると言ひ得る。大阪に比して東京の方が通勤が少數であるのは第八表に明かなる如く市內育ちの者が大阪に比して少數であるのに基くものと見て差支へなからう。一般に住込は夜間營業の店に於て其の歸途の誘惑を防ぐために必要とせられてゐる。更に住込通勤の狀態を各警察管內別に見るに

第二十七表　住居調査（東京）

區別＼警察署	日比谷	錦町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稻田	富坂	本富士	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計
住込	八七	七三	六九	二七	二四	三三	三二	三三	九六	五九	三六	四三	四六	八〇	二一〇	五一	二〇	二五	二七	九三九
通勤	三七	三七	三七	二五	一三	一四	二	一	八	一	四	七	七	二	二三	二	四	一	五	二三五
不明	二七	二九	三七	二	一九	三	三	九	四三	一四	一五	二七	一九	五五	七二	二四	一五	九	二四	四九六
計	一〇七	一八	九	四三	一〇五	六九	五六	四三	一四六	七四	五五	七七	七三	一五六	二二五	七七	三九	三五	七六	一、六七〇

右表に示さるゝ如く日比谷管內に於ては他の管內と比較にならぬ程通勤者多く、八〇名の中七二名即ち九割は通勤であつて住込は一割に過ぎぬ。次に通勤者の多いのは築地管內で八六人中、三三人即ち三割八分、北紺屋の三割、象潟の二割之に次ぐ。日比谷の通勤の多いのは夜間就業の少ないのと丸の內を主とする建物が多く女給を宿泊せしめるに不適當なる爲である。反對に住込の多いのは神樂坂を第一位とし表町、原庭、大塚の順序である。一般に住込は風紀を亂すこと、比較的通勤より少ない。

之に反して通勤は店が閉鎖されてから女給が自分の住居に歸る間は全く監督者の手を離るゝこと、なる爲あらゆる風紀問題は此の間に行はれ或は之を亂す源を造ることゝなる。故に近來問題となつてをる女給の風紀問題及びカフエーを中心とする犯罪等を防ぐ方法としては色々あるだらうが女給を成る可く住込制度とし店主に女給を取締る義務を負はせ或ひは又夜間十二時以後の營業を制限し之に對

して取締りの方法を講ずるが如きは風紀を亂す機會を相當減少する效果のあること〻思ふ。

次に大阪に於ける各署別の住込通勤狀況を示せば

第二十八表　住居調査（大阪）

區別＼警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
住込	七九	一〇二	一六	一五	一四	五	一〇	九三	三	三	二七	一八	一六	二六	一八	二八	一五	五四九
通勤	三	二〇	七	三〇	六	一〇	七	六三	一〇	一	一八	五	五	四	三	六	四	二九
不明	四	四八	七	三五	一八	二四	三	九〇	七	四	三	六	一四	一四	五	一五	二六	三五一
計	四五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	二九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、一二五

右の如く通勤の最も多いのは島之内管内と戎管内である。兩者共通勤は住込の約二倍である。天滿、九條、新町は之に次いで通勤者が多い。天王寺管内は三七人中の不明者四名を除き三三名中通勤者は一人もなく、其他通勤者の少ないのは芦原、船場管内であるが概して大阪は通勤者の多いことは事實である。

一二　就寢時間と起床時間

晝間の煩わしさから逃れて一夜の甘い享樂に醉ふ人達の群、更に進んでは不良少年の群など飲食は第二として其内に居る女給達を張りに歩くことが第一の目的であると言ふ此等のお客を相手に紅白粉の匂を賣るのが現在のカフエー女給の大部分とされてゐる。であるから其の歡樂の巷は大概火燈し頃からボツ〳〵初つて八時九時から稍濃厚となり夜半十一時十二時を以て最高潮に達する、從つて之を商賣とするものは晝夜の顚倒した生活をしなければならなくなる。

就寢時間を表に揭ぐれば

第二十九表の一　就寢時間調査

時刻＼賣數率	賣數 東京	賣數 大阪	賣數 計	率 東京	率 大阪	率 計
午後九時						
九時半	八	一	九	〇・五		〇・三
一〇時	二二	一	五	〇・二		〇・二
一〇時半	一六	四	二六	一・三	四	〇・九
一一時	六七	一三	二二	一・〇	〇・五	〇・八
一一時半	四五	一一	八〇	四・〇	一・二	二・九
一二時	三一九	一一三	五六	二・七	一・〇	二・〇
午前零時	二二六	六〇	四三二	一九・三	一〇・四	一五・八
一時半	四八八	二四九	二八六	一三・七	五・五	一〇・四
二時	一七二	一三五	七三七	一〇・四	二二・九	二六・九
二時半	二〇三	二九六	四九九	一二・三	一二・四	一一・二
三時	三〇	七二	一〇二	一・八	六・六	三・七

時刻＼賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計
午前三時半	三六	八六	一二二	二・二	七・九	四・五
三時半	七	二四	三一	一・一	二・二	一・一
四時	六	一四	二〇	一	一・三	〇・七
四時半	一		一	一	一	一
五時	二	一	二	一	一	一
五時半	一	一	一	一	一	一
六時	二	一	二	一	一	一
計	一、六五四	一、〇八五	二、七三九	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一六	三〇	四六			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

先づ東京について見るに夜半一時に休むと言ふもの四八八人で約三割即ち第一位を占め、次は午前零時頃休むもので三一九人、約二割、第三位に位するものは午前零時半頃に休むと言ふ二二六人約一割四厘、二時に休むのが第四位で二〇三人即ち一割二分三厘の順序である。要するに午後十一時半から午前二時頃迄に休むものが大多數を占め一、四〇八人あり、調査總數から不明者を除いた一、六五一人の八割五分に相當し殆んど大部分と言つてよい。

次に大阪について見れば夜半一時半から二時頃迄に休むものが最も多く二九六人即ち二割七分餘、之に次いでは午前零時半から一時迄に休むもの二割三分、第三位に位するものは一時から一時半の一三五人即ち一割二分四厘である。午前零時頃休むと云ふのが第四位で一一三人—一割强に當る。是に依つて之れを見れば大阪も東京と同樣に午後十一時半頃から午前二時迄に休むものが大多數を占め其の數八五三人即ち調査數の約八割に當る。以上の如く午後十一時半頃から午前二時迄に休む者は兩市殆んど同じ割合であるが大阪の方が第一位、第二位、第三位共に東京より就寢時間が遲れてゐる點に於て大體から云ふと東京の方が床に就くのが早いと言はなければならぬ。只之に對する例外と見るべきは午前五時六時に床に就くものが四、五人居ることである。次に起床時間を表示すれば

第三十表の一　起床時間調査

起床時刻＼賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計
午前五時	二〇	二	二二	一・二		〇・八
五時半	一八	六	二四	一・一		〇・九
六時	四九	一六	六五	二・九	一・五	二・三
六時半	五五	一四	六九	三・三	一・三	二・五
七時	一一八	三八	一五六	七・一	三・五	五・七
七時半	六一	二八	八九	三・七	二・六	三・三
八時	二二五	九二	三一七	一三・六	八・五	一一・六
八時半	一三五	六一	一九六	八・二	五・六	七・二

起床時刻 ＼ 貸數率	貸數 東京	貸數 大阪	貸數 計	率 東京	率 大阪	率 計
午前九時半	四八	一九六	六八四	二九・五	一八・一	二五・〇
九時半	一六一	一〇三	二六四	九・八	九・五	九・七
一〇時	二二八	三三一	五五九	一三・七	三〇・六	二〇・四
一〇時半	三四九	七〇	一一九	二・九	六・〇	四・三
一一時	一三	〇〇	一三一	一・九	九・二	四・八
一一時半	〇四	八	一二	〇・二	〇・七	〇・四
午後零時	一	五	二五	〇・六	一・三	〇・九
一時半						
二時						
二時半						
三時						
三時半						
四時	一		一			
四時半						
計	一、六五六	一、〇八二	二、七三八	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一四	三三	四七			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

更に就寝、起床時間を東京大阪各警察署管内別に見れば分に當る。

起床時刻 ＼ 就寝時刻	午前九時半	九時半	一〇時	一〇時半	一一時	一一時半	午後零時	一時半	二時	二時半	三時	三時半	四時	四時半	計	不明	總計
東京	四八	一六二	二二八	三四九	一〇	四	一								一、六五六	一四	一、六七〇
大阪	一九六	一〇三	三三一	七〇	〇〇	八	五								一、〇八二	三三	一、一一五
計	六八四	二六四	五五九	一一九	一三一	一二	五								二、七三八	四七	二、七八五
東京	二九・五	九・八	一三・七	二・九	一・九	〇・二	〇・六								一〇〇・〇		
大阪	一八・一	九・五	三〇・六	六・〇	九・二	〇・七	一・三								一〇〇・〇		
計	二五・〇	九・七	二〇・四	四・三	四・八	〇・四	〇・九								一〇〇・〇		

第三十表の二　起床（第四圖參照）

時刻＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
午後九時						
午後十時						
午後十一時						
午前零時						
午前一時						
午前二時						
午前三時						
午前四時						
午前五時	二〇	二	二二	一・二		
午前六時	六七	三	八九	四・〇	二・〇	
午前七時	一七三	五三	二二五	一〇・四	四・八	
午前八時	二八六	二〇	四〇六	一七・三	一一・一	
午前九時	六三	二五七	八八〇	三七・六	二三・七	
午前一〇時	三八九	四二四	八二三	二三・五	四〇・一	
午前一一時	八〇	一七〇	二五〇	四・八	一五・七	一〇〇・〇
午後零時	一四	二三	三七	〇・八	二・二	一〇〇・〇
午後一時		二	二			
午後二時						
午後三時						
午後四時						
午後五時						
午後六時						
午後七時						
午後八時						
午後九時						
計	一、六五六	一、〇八二	二、七三八	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一四	三三	四七			
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五			

第二十九表の二　就寢（第四圖參照）

時刻＼實數率	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
午後九時	八	一	九	〇・五		〇・三
午後十時	二六	五	三一	一・六	〇・四	一・一
午後十一時	八三	一九	一〇二	五・〇	一・七	三・七
午前零時	二六四	一二四	四八八	二三・〇	一一・四	一七・八
午前一時	二七五	四三一	八〇六	三三・七	二八・五	二七・三
午前二時	七一四	三〇九	一、〇二三	四三・二	二七・五	二九・四
午前三時	二		二			
午前四時	三		三			
午前五時	一三	三八	五一	〇・八	三・五	一・九
午前六時	六六	一五八	二二四	四・〇	一四・六	八・二
午前七時	一一三	二〇九	三二二	二三・七	三九・七	二九・四
午前八時	一七三	四二一	六〇四	一〇・四	二八・五	三七・三
午前九時	二六六	一二四	三八九	六・三	一七・八	
午前一〇時	二六	五	三一	一・二		
午前一一時	八	一	九	〇・五		〇・三
午後零時						
午後一時						
午後二時						
午後三時						
午後四時						
午後五時						
午後六時						
午後七時						
午後八時						
午後九時						
計	一、六五四	一、〇八五	二、七三九	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
不明	一六	三〇	四六			
總計	一、七六〇	一、一一五	二、七八五			

實數率 ＼ 起床時刻	實數 東京	實數 大阪	實數 計	率 東京	率 大阪	率 計
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前六時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前七時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前八時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前九時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前十時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前十一時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前十二時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前一時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前二時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前三時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

第二十表　起床時刻（第四期調査）

起床時刻	東京大阪 計	東京大阪 計
[illegible]	[illegible]	[illegible]
午前六時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前七時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前八時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前九時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前十時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前十一時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前十二時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前一時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前二時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
午前三時半迄に起るもの	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]

東京に就て見れば午前八時半から九時の間に起るもの四八八人即ち三割で第一位を占む。第二は九時半から十時迄に起るもの二二八人で約一割四分、第三位は七時半から八時に起るもの、二二五人で一割三分六厘に當り、次の第四位、第五位にあるものも矢張り午前七時半から十時迄の間にあつて其數一、二三七人即ち調査數に對して七割四分七厘と言ふ大多數は午前七時半から十時迄に起ること、なる。

次に大阪の方は其最も多數を占むるものは午前九時半から十時の間の三三一人(三割六厘)、次は八時半から九時の間で一九六人(一割八分)、第三位は九時から九時半に起るもので一〇三人(一割)、序でに第五位迄を擧げて見れば午前七時半から八時の者で九二人(八分五厘)と言ふ數であるが大阪に於ては東京より起床時間は遙かに遲く大多數は午前八時半から十一時迄に起る者で其數八〇〇人不明者を除いた調査數に對して七割五分の割合である。夜寢るのが東京に比して遲れてゐる當然の結果と言へよう。

要之に就寢の時間と同じく大阪は東京より約一時間遲く起ると言ふことになる、然し兩市を通算して見ると矢張り午前七時半頃から十時迄に起るのが最も多數で合計二、〇二〇人即ち調査數の七割三分に當る。

更に就寢、起床時間を東京大阪各警察署管内別に見れば

第三十一表　就寢時間調（東京）

就寢時刻／警察署	午後九時半	九時	一〇時半	一〇時	一時半	一時	二時半	二時	三時半	三時	四時以後	計	不明
日比谷	一	一	三	五	四	三	二	一	四	五	八	一〇七	一
錦町	一				一	二	一	一	三	五	一三	二八	一
西神田					一	四	一	二	五	七	一〇	九八	一
新橋					二		一	一	四	一	二	四三	一
築地				一	一	二	七		二	七	五	一〇五	一
北紺屋									一九	一八	五	六九	一
三田					三			六	六	一五	二	五六	一
表町									三	二	一三	四二	一
四谷		一	一	八				九	一六	二六	一九	一四六	一
神樂坂	一			七	三	四	三		五	三三	二	七四	一
早稲田		二	二	一	三	八	八	一四	四	一三	二	五五	一
富坂				三	三	一	五	二	三	六	一	七五	二
本富士					四	四	一	一六	四	四	一	七二	一
上野		三		五	三	三	一	五六	一九	一五	一	一五五	一
象潟		一			九	五〇	三〇	八三	一八	一七	一	二三一	四
原庭				一		九	七	三三	三	三三	四	七七	一
洲崎		一		二		一五	二	九	二	一	七	二九	一
大塚						五	六	一三	八	三	一	三五	一
日本堤	五	一	一	一		一八	二	二	一	三	四	六九	七
計	八	四	二三	一六	四五	三一九	二三六	四九〇	一七二	二〇三	三〇	一、六五六	一四

第三十二表　起床時間調（東京）

起床時刻／警察署	午前五時半	五時	六時半	六時	七時半	七時	八時半	八時	九時半	九時	一〇時半	一〇時	一一時半	一一時	一二時半	一二時	午後零時半	一時	計
日比谷	四	六	三	三	五	一三	一	七	五	五	一								一〇七
錦町				二	四	四	三	一〇	四八	二五	三	一〇							二八
西神田	一	一			三	七	五	一三	四三	二	四								九八
新橋			二	一	五	四	三	二	二	六									四三
築地		一	三	五	二	四	六	二〇	二四	一〇	四	一七							一〇五
北紺屋			一	三	三	一	七	三	一八	七		一六							六九
三田				五	一	二	三	八	一六	二	六	四							五六
表町			二		五		九	四	一六	六									四二
四谷			七	一	五	一	七	一四	二二	二	一二	二三	二	一八	三	一			一四六
神樂坂			三	三	二	三	六	三三	三三	五	七								七四
早稲田	四	一	二	三	四		二	四	一七	六	一〇	三							五五
富坂					七		二	一二	一五	六	二三	六	一						七五
本富士						二	一	三三	三三	六	二	一							七二
上野	三			五	七	二	五	一六	四	一六	一七	六〇	一	一	六	一		一	一五五
象潟				三	四		二	四七	三〇	七一	二四	二	二	七	二				二三五
原庭					一			一	六	三〇	二四	二	一	三					七七
洲崎				二	七	三	一	一	四	一五	二	五							二九
大塚									一	二二	一〇	二							三五
日本堤	七	四			二		三	二	一	一	六	三	八	一	九				七六
計	二〇	一八	四九	五五	二二	一八	二五五	二三五	四八八	一六二	二三八	四九	三一	一四	一〇				一、六七〇

起床時刻 ＼ 警察署	日比谷	鍋町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稲田	富坂	本富士	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計
午後一時半	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二時半	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三時	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二
四時	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一〇七	一八	九八	四三	一〇五	六九	五六	四三	一四六	七四	五五	七五	七三	一五五	三二	七七	三九	三五	六九	一、六九六
不明	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	四	一	一	一	七	一四
總計	一〇七	一八	九八	四三	一〇五	六九	五六	四三	一四六	七四	五五	七七	七三	一五六	三五	七七	三九	三五	七六	一、六七〇

大體就寢時間の遲い所は起床時間も遲く、概して住込の者は通勤のものよりも遲い傾向がある、（第二十九表、第三十表參照）就寢時間と起床時間の關係から睡眠時間は八時間から九時間が普通であると言へよう、猶午後二、三時の頃を晝寢の夢に過すものも可成りあるかの樣に調査票から窺はれる。

日比谷の特に早いものは丸の内を主とし大きな西洋料理店、カフエーの女給が調査中に多數含まれてゐるからである。之に反し日本堤署管内の特別遲いのは吉原を控へ全く特別區域の中に在る結果と見る外なからう。大體は女給の就寢時間によつて其勤務先の何時頃迄開かれてゐるかを示し從つて其店に集り來る客の種類等も略推察し得る。午前零時頃迄に休むもの〳〵多數を示すものは日比谷管内のみで他は皆それ以後に休むものが多數を占めてゐる。然し其の中に午前零時を中心として前後の差の少いものを擧げて見れば本富士、神樂坂、西神田等で、零時以後就寢するもの〳〵數の殊に多數を占むるのは四谷、富坂、原庭、象潟、大塚、日本堤等である。又特別に拂曉に至つて寢に就くものをも見る、即ち四谷、富坂、日本堤には午前四時に休むものあり、日本堤の午前六時等と共に例外である。之等は何れも普通所謂カフエーに非ざるものを含むが故にして一體に盛場と思はれる所を含む管内は就寢時間も概して遲いことが窺はれる。

次に三十二表に就て見るに就寢の早きもの多き所は起床も早く、就寢の遲きもの多き所は起床も概して遲い。四谷、富坂、上野、象潟、原庭、日本堤等には正午近くなつて漸く起き出づるものあり、殊に日本堤に於ては午後三時、四時に起るものさへある。

次に大阪市に於けるものを各管内別に見るに

第三十三表　就寢時間調（大阪）

就寢時刻 ＼ 警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
午後九時	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九時半	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇時	一	一	一	二	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四
一〇時半	一	二	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六

就寢時刻／警察署	午後一一時	一一時半	一二時	午前零時半	一時	一時半	二時	二時半	三時	三時半	四時	計	不明	總計
芦原	—	—	—	五	三三	一五	四三	—	—	—	—	九六	—	九六
船場	五	四	四〇	一五	五〇	二四	一九	六	三	—	一	一六九	—	一六九
玉造	—	—	—	一	六	六	一〇	一	六	—	—	三〇	—	三〇
内島之	四	三	一	二	六	八	一五	八	五	三	—	七三	七	八〇
難波	—	—	—	—	三	三	一六	九	二	二	三	三八	—	三八
戎	—	—	一	四	一三	二	九	三	二	—	—	三三	六	三九
新町	—	—	七	—	六	四	六	三	三	—	—	二九	—	二九
九條	二	—	一三	六	四一	一四	七〇	一七	二八	一六	一〇	二三八	八	二四六
朝日橋	—	—	—	一	九	九	二六	三	—	—	—	四八	—	四八
天王寺	—	—	一	三	一三	三	一二	四	三	—	—	三七	—	三七
天滿	一	一	五	五	二〇	六	一八	二	四	一	—	六三	四	六七
曾根崎	—	—	—	—	二	七	八	五	四	—	—	二六	三	二九
泉尾	—	一	八	七	二	二	七	四	二	二	—	三五	—	三五
福島	—	—	六	三	二〇	四	七	一	二	—	—	四三	一	四四
川口	—	—	—	一	七	九	一四	三	一	—	—	三五	—	三五
築港	一	—	九	一	七	一〇	一七	三	一	—	—	四九	—	四九
網島	—	二	一三	六	一三	九	一	—	—	—	—	四四	一	四五
計	一二	二	一三	六〇	二四九	一三五	二九六	七三	八六	二四	一四	一、〇八五	三〇	一、一一五

第三十四表　起床時間調（大阪）

起床時刻／警察署	午前五時	五時半	六時	六時半	七時	七時半	八時	八時半	九時	九時半	一〇時	一〇時半	一一時	一一時半	一二時	午後零時半	一時	一時半	二時	二時半	三時	三時半	四時
芦原	—	—	一	—	五	—	三	二	一六	一六	二八	七	一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
船場	—	一	三	四	八	七	一七	二〇	二四	三	三五	九	八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
玉造	—	—	—	—	—	—	—	一	二	五	一五	三	三	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
内島之	一	一	五	四	五	五	一三	三	一五	四	一〇	—	四	一	一	一	—	—	—	—	—	—	—
難波	—	四	一	二	二	—	—	—	四	一	一三	七	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
戎	—	—	一	—	一	—	七	三	八	四	七	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新町	—	—	—	—	—	—	四	—	五	四	九	二	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九條	—	—	三	一	五	五	一八	二	二八	一七	八七	一四	一三	三	九	—	一	—	—	—	—	—	—
朝日橋	—	—	—	—	—	一	二	一	一四	九	二一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
天王寺	—	—	—	—	—	—	二	—	八	四	一四	二	五	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—
天滿	—	—	—	一	五	四	二	二	九	三	一八	九	一四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
曾根崎	—	—	—	—	—	—	—	一	三	五	一三	三	一	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—
泉尾	一	—	—	—	一	一	三	一	六	二	一二	二	二	三	二	—	—	—	—	—	—	—	—
福島	—	—	—	—	—	一	—	三	五	七	二〇	三	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
川口	—	—	—	二	五	二	一	四	八	—	九	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
築港	—	—	一	—	一	二	三	一	八	三	一五	七	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
網島	—	—	一	—	—	—	七	八	一三	六	八	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	二	六	一六	一四	三八	二八	九三	六二	一九六	一〇三	三三一	七〇	一〇〇	八	一五	一	一	—	—	—	—	—	—

起床時刻 ＼ 警察署	芦原	船場	玉造	島之内	難波	戎	新町	九條	朝日橋	天王寺	天滿	曾根崎	泉尾	福島	川口	築港	網島	計
計	九五	一六九	三〇	七三	三八	三三	二九	二三六	四八	三七	六七	二六	三五	四四	三五	四七	四四	一、〇八二
不明	一	一	一	七	一	六	一	二	一	一	一	三	一	一	二	二	一	三
總計	九五	一六九	三〇	八〇	三八	三九	二九	二四六	四八	三七	六七	二九	三五	四四	三五	四九	四五	一、一五

船場、泉尾、網島を除けば他の管内は大多數は午前零時過ぎに寢に就き三時を過ぎるものも非常に多い。三時半から四時に至るものも船場、難波、九條、島之内、泉尾、天滿等にある。又大阪に於ける起床時間も大體に於て就寢時間の遲い所は從つて起床時間も遲く、午前八時迄に起きる者の相當多數に達するのは船場、島之内管内だけで他は何れも九時以後に起るものが多い。殊に玉造、難波、朝日橋、天王寺、曾根崎に至つては大部分九時以後と言つて差支へない。斯樣な所は、東京では大塚管内で見られるだけである。

東京のものと大阪のものと就寢時刻に約一時間の差のあるのは東京市のカフエーの客には學生勤人が多く、之に反し大阪は商人が多いと言ふことも一原因であらう、東京市のある警察署では夜十二時以後の營業を禁止し又は制限する命令を出して嚴重に取締つておる所がある爲、其影響も多少あるものと見なければならぬ。勿論大阪市でも適當な制限はあるが東京程嚴しくない樣である。

あらゆる罪惡が白晝よりも深夜に多く潜むことは獨り此の社會に限らぬけれども殊に性的の犯罪は夜間に多いものである。故に此の社會に於ける裏面を考へても亦、健康上からしても營業時間はチツプ問題と共に相當考慮の要があると思ふ。

一三　一日の生活

前に述べた樣に起床時間の相違が既に甚しいから、一日の生活も從つて異つてゐるのは當然のことであらう。先づ九の内邊りのビルディング内にあるカフエーに家庭から通勤してゐる者などは普通商店の女店員と殆んど變りのない生活狀態をなすものであらう。只夜店を閉づる時間が若干店員と變る位のものである。然し之等は女給の中での例外に屬すべきものであつて、其殆ど大部分は所謂女給獨特の「一日の生活」を送つてゐる。場處によつては多少時間の差こそあれ、大抵陽の上り切つた八時、九時に起き出してシダラない伊達卷姿で其邊を片附け掃除する。そして前夜使用のナイフやホウク等を磨く。嚏て晝になると何か申し譯ばかりの食事をすませる。それから後の二、三時間は休息で晝寢をする、手紙を書く、下卑た雜談に耽る、寢そべつて雜誌の拾ひ讀みをする。それから代りあつて錢湯に行きボツ〳〵夜の準備にかゝる。此の準備こそ彼等には最も大切な仕事であり又唯一の資本である。

充分手をつくして我乍ら鏡の前に見とれる位に出來上つたら客を待つばかりである。火點頃となればそろ〳〵人が入りかける。然し未だ早い。所謂カフエー氣分は八時、九時、十時と時の過ぐるに從つて次第に濃厚を加へ、十一時過ぎて漸く其絶頂に達すると云はれてゐる。而して廓内及其附近では徹宵朝の五時頃迄に及ぶものもある等實に別世界の觀がある。而して此の女給の收入は、固定給のない所では、集ひ來る客にも依るが、專ら媚を賣ることによつて、氣紛れなお客のお思召に出る祝儀を得るのみである。而も此の收入を多くせんが爲めには心にもない甘言を述べ、煙草を出せばマッチに點火して出す等、凡ゆる苦痛もより多きチップを得るためには敢て凌ぐのである。斯うした夜を續ける中に漸次身體の疲勞と共に、心も亦全く緊張の糸を弛めてダラシとなり、媚に對する報酬の多い所を追ふて流々轉々浮草のやうな生活を續けて行くのである。今日の樣に不景氣が深刻になると、生活と虚榮の爲めには勢ひ何でも捧げると云ふ樣になり、何日しか逃れられない魔の渦卷に吸ひ込まれて行き、途には闇に咲く花と墮ち行くものが多いと聞くのである。

ダラシなき沈淪破滅の生活は先づ朝寢より初まり、規則正しき生活に堪えられず、果ては身心共に荒み行き、途には救ふべからざる墮落の淵に沈んで行くものであらう。

一四　收入狀況

一ヶ月の平均總收入は非常に興味ある問題であるが一般に收入不定の爲め正確なる調査不能なるも概數丈けは掴み得たと思ふ。之に就ても東京と大阪兩市の間に多少の相違がある、即本調査の結果に依つてみれば東京では金額不明の一一八人を除き一、五五二人の中二七八人即ち約一割八分は貳拾五圓以上參拾圓未滿の月收者である。第二位は四拾五圓以上五拾圓未滿のもので一、五五二人の中一八七人一割二分に當る。次は參拾五圓以上四拾圓未滿の一割二分弱、參拾圓以上參拾五圓未滿の約八分、拾五圓以上貳拾圓未滿の七分五厘の順序である。大阪に於ても貳拾五圓以上參拾圓未滿の第一位たることに於ては東京に於けると同じく、金額不明の六三人を除き一、〇五二人の内二〇一人即ち一割九分餘に達す。第二位は東京の四拾五圓以上五拾圓未滿なるに反し大阪に於ては參拾五圓以上四拾圓未滿であつて東京の第二位は大阪では第三位となる。然るに第四位に至つては東京の參拾圓以上參拾五圓未滿なるに大阪に於ては五拾五圓以上六拾圓未滿の者である。第五位の拾五圓以上貳拾圓未滿なるは兩市相同じ。依つて兩市を通じて見るに左表に示さるゝ如く調査總數二、七八五人の中金額不明者一八一人を除き二、六〇四人の中四七九人即ち一割八分餘は貳拾五圓以上參拾圓未滿である。第二位は參拾五圓以上四拾圓未滿の一割三分弱、四拾五圓以上五拾圓以下は一割二分で第三位、次は拾五圓以上貳拾圓未滿の七分六厘、參拾圓以上參拾五圓未滿の七分四厘の順序である。

第三十五表　總收入調査の一

月額 / 賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計	順位
一〇圓以下	四〇	四	四四	二・五	〇・四	一・七	一五
一五圓以下	七〇	四二	一一二	四・四	三・九	四・三	八
二〇圓以下	一二〇	七九	一九九	七・六	七・〇	七・六	四
二五圓以下	九七	五四	一五一	六・二	五・〇	五・八	七
三〇圓以下	二七八	二〇一	四七九	一七・八	一九・一	一八・四	一
三五圓以下	一二二	六九	一九一	七・八	六・五	七・四	六
四〇圓以下	一八四	一四九	三三三	一一・八	一四・一	一二・八	二
四五圓以下	六五	四一	一〇六	四・二	三・八	四・一	九
五〇圓以下	一八七	一二六	三一三	一二・〇	一一・九	一二・〇	三
五五圓以下	四三	一九	六二	二・七	一・八	二・四	一二
六〇圓以下	一〇二	九五	一九七	六・四	九・〇	七・六	五
六五圓以下	三一	一五	四六	一・九	一・四	一・八	一四
七〇圓以下	四五	三八	八三	二・八	三・六	三・二	一九
七五圓以下	二四	六	三〇	一・五	〇・五	一・一	一六
八〇圓以下	三七	二六	六三	二・三	二・四	二・四	一〇
八五圓以下	八	一一	一九	〇・五	一・〇	〇・七	一八
九〇圓以下	二八	二三	五一	一・七	二・〇	二・〇	一三
九五圓以下	二	一	三	〇・一	〇・一	〇・一	二四
一〇〇圓以下	三二	三一	六三	二・〇	二・九	二・四	一一
一一〇圓以下	八	一	九	〇・五	〇・一	〇・三	二〇

月額 / 賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計	順位
二〇圓以下	一五〇	一一	二六一	一・三	〇・八	一・六	一五
二五圓以下	一二〇	一一	二三一	一・二	〇・一	一・〇	一四
三〇圓以下	一三〇	一一	二四一	一・三	〇・一	一・二	一一
三五圓以下	一四〇	一一	二五一	一・四	〇・一	一・二	一〇
四〇圓以下	一五〇	一一	二六一	一・五	〇・一	一・二	九
四五圓以下	一六〇	一一	二七一	一・六	〇・一	一・二	八
五〇圓以下	一七〇	一一	二八一	一・七	〇・一	一・二	七
五五圓以下	一八〇	一一	二九一	一・八	〇・一	一・二	六
六〇圓以下	一九〇	一一	三〇一	一・九	〇・一	一・二	五
六五圓以下	二〇〇	一一	三一一	二・〇	〇・一	二・〇	四
七〇圓以下	二一〇	一一	三二一	二・一	〇・一	二・〇	三
七五圓以下	二二〇	一一	三三一	二・二	〇・一	二・〇	二
八〇圓以下	二三〇	一一	三四一	二・三	〇・一	二・〇	一
八五圓以下	二四〇	一一	三五一	二・四	〇・一	二・〇	〇
九〇圓以下	二五〇	一一	三六一	二・五	〇・一	二・〇	九
九五圓以下	二六〇	一一	三七一	二・六	〇・一	二・〇	八
一〇〇圓以下	二七〇	一一	三八一	二・七	〇・一	二・〇	七
一一〇圓以下	二八〇	一一	三九一	二・八	〇・一	二・〇	六
計	一、五五二	一、〇五二	二、六〇四	〇・三	〇・八	〇・五	
不明	一一八	六三	一八一				
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五				

年季、（年季二ヶ年 一五〇〇圓 一〇〇〇圓 五人 主人持前借）計七人ハ不明ニ算入ス

第三十五表ノ二　總收入調査（第五圖參照）

月額 / 賃數率	賃數 東京	賃數 大阪	賃數 計	率 東京	率 大阪	率 計
一〇圓以下	四〇	四	四四	二・六〇	〇・三八	一・七〇
二〇圓以下	一九〇	一二一	三一一	一二・二〇	一一・五〇	一一・六〇

月額＼賃數率	賃數		率	
	東京	大阪	東京	大阪
三〇圓以下	三七五	二五五	二四・二〇	二四・二〇
四〇圓以下	三〇六	二一八	一九・七〇	二〇・一〇
五〇圓以下	二五二	一六七	一六・二〇	一六・一〇
六〇圓以下	一四五	一一四	九・三〇	九・九〇
七〇圓以下	七六	五三	四・九〇	四・九〇
八〇圓以下	六一	三二	三・九〇	三・六〇
九〇圓以下	三六	三四	二・三〇	二・七〇
一〇〇圓以下	三四	三二	二・二〇	二・五〇
一五〇圓以下	三二	二〇	二・一〇	二・〇〇
二〇〇圓以下	四	二	〇・三〇	〇・三五
三〇〇圓以下	一		〇・〇六	〇・〇四
計	一、五五二	一、〇五二	二、六〇四	一〇〇・〇〇
不明	一一八	六三	一八一	
總計	一、六七〇	一、一一五	二、七八五	

右表に依つて明かなる如く大部分は六拾圓以下の月收入者で、東京は一、五五二人の内一、三〇八人即約八割五分、大阪は一、〇五二人の内八七五人即八割三分餘を占める。兩市を通じ約八割四分は六拾圓以下の月收者である。

右の表に依れば豫期に反して小額なる感がある、之れは大正九年以來の經濟界不況の反映もあらうが、又實地調査の結果と比較すれば多くの調査票は其最小額を記載せるものゝ樣であることも原因の重大なものであらう。猶收入總額に關する東京、大阪の各警察署管別により調査の結果を見る時は各管内の特徴が收入狀態により最もよく現はれてゐる。

第三十六表　收入金額（東京）

月額＼警察署	日比谷	錦町	西神田	新橋	築地	北紺屋	三田	表町	四谷	神樂坂	早稲田	富坂	本富士	上野	象潟	原庭	洲崎	大塚	日本堤	計	百分比
一〇圓以下		四	二		一		一	一	二		一	九		六	六	二	二		二	四〇	二・五
一五圓以下		五	四	六		一	四	三	四		七	一		六	一	九	二	五	三	七〇	四・四
二〇圓以下	五	五	四	一	六	一	三	三	一四	九	二	七	六	三	三	一	一	三	二	一九七	一一・八
二五圓以下	一三	四	五	一	二	二	五		七	二	七	三	四	一七	四	七	五	九	五	九七	六・二
三〇圓以下	一六	二六	二五	六	一八	八	一四	二	三二	一〇	六	一〇	一八	二三	三三	七	四	一	二	二七八	一七・八
三五圓以下	一〇	一八	一	五	一	一	八	九	六	二	六	四	六	一七	五	二		九	九	一三三	七・八
四〇圓以下	一四	七	七	八	一四	四	九	五	一一	七	二	一〇	一	一〇	一九	一	五	六	一八四	一一〇	六・二
四五圓以下	三	七	五	一	五	四	五	二	七	二	一	三	六	六	四	四	三	一	六	六九	四・二
五〇圓以下	一〇	二	七	六	一五	二五		三	二五	三	六	七	一	三	二	二	四	六	八	一八七	一二・〇
五五圓以下	五		五	三	五	四	一	六	二	一		三	一	二	二	一	二	二	四	一四三	二・七
六〇圓以下	二	二	三	二	七	六	四		一四	一	四	一四	五	一五	三三	二	四	一	七	一〇二	六・四